

令和4年度定期監査質疑応答

監査対象 指導課

記録者氏名 中澤 真治

年月日	令和4年11月29日	時間	9:09~9:29
説明者	瀧澤学校教育部副参事兼指導課長	説明時間	9:09~9:13
出席者	加藤学校教育部次長、瀧澤学校教育部副参事兼指導課長 大山代表、鈴木委員、代田委員、鮎谷局長、中澤次長、中川副主幹		

主な質疑応答

委員：指摘事項としては、No.9のところ「中学校吹奏楽演奏会における楽器輸送業務」において、業務の特殊性から1者見積りとしているが、他に業務を請け負える業者もいるのではないか、2者以上の見積りをご検討いただきたい。

課長：承知した。

委員：英語教育について特例校の指定を受けているが、実際にテストをすると効果は表れているのか。

課長：小学校は狙いとしては、まず英語に触れるということ。効果を図るということは国、県も同様だが特にしていない状況。しかし、成果を見ることは必要であり、そういった調査研究もしている。

中学校については英語の学力テストがある。国で調査している中三の時点での能力の達成状況の調査である。それでは、中学校卒業程度の力を身に着けている生徒が国が目指しているのは半数以上、本市では52%達成している状況。

委員：達成していない市町村が多いのか

課長：県の平均が47%。

委員：それでは、効果が出ていると考えているのか。

課長：本制度は令和2年から始めて、まだ、2年程度、効果が出ているかは、さらに検証が必要である。

委員：予算は、中学校の方が多いのか。